

第3回刈谷市美術館リニューアル計画検討委員会 議事要旨

日 時： 令和7年12月26日（金）午後1時30分～3時30分

場 所： 刈谷市美術館 2階研修室

出席者：委員 長 村田真宏氏（豊田市博物館 館長）
副委員 長 栗田秀法氏（跡見学園女子大学 文学部 教授）
委 員 中村僚志氏（愛知教育大学 創造科学系美術教育講座 教授）
委 員 鈴木康則氏（刈谷文化協会 会長）
委 員 加藤英樹氏（刈谷市商工会議所 会頭）
委 員 馬場千春氏（刈谷市立さくら保育園 園長）
オブザーバー 市民活動部 伊藤部長
事 務 局 市民活動部 石川文化振興監
刈谷市美術館 鈴木館長、神谷専門員、土居学芸員
企画財政部施設保全課 石田課長補佐、上條主任主査、阿部主任主査

次 第：1 前回の議事要旨について

2 議事

基本計画（案）の検討とリニューアルの方向性について

（1）第2章 リニューアル後の目指す姿

（2）第3章 事業計画

（3）第4章 施設整備計画

（4）第5章 管理運営計画

3 その他

議事概要（委員のおもな意見）：

議事（１）第２章 リニューアル後の目指す姿

（２）第３章 事業計画

[事務局説明]

前回の検討委員会での指摘を踏まえ、リニューアル後の目指す姿と事業計画について説明し、また、アンケート結果の報告を行った。委員から以下のような意見をいただいた。

[委員からの意見]

- ・展示室では静寂の中で静かに鑑賞したいが、市民ギャラリーは交流スペースの中に位置づけ、多少のざわざわ感があつた方が訪れやすい。賑わいや交流が生まれる施設配置をお願いしたい。
- ・「展示室内では会話をしてはならない」「静かに見るところだ」というイメージが特に日本では強い。迷惑にならない範囲ではあるが、展示室内での自由な会話や、子どもたちの対話型鑑賞が普及してきている。そういった方向性が、この美術館の新しい姿として実現できると良い。
- ・「目指す姿」について「ミュージアム」としたのは、美術館だと堅いイメージがあるからか。（事務局）そのとおりである。
- ・「美術館」はかしこまって敷居が高いイメージ。従来のイメージを超えていく思いを込めて「ミュージアム」とするのは良い。
- ・ホームページのインパクトは重要で、動画や画像を通して見ると実際に行ってみたくなる。継続してホームページの作成、管理を行うなら、基本計画に盛り込んでおく必要がある。
- ・ホームページや SNS の活用、Wi-Fi 環境の整備は重要だ。学校団体が来館する際、学校で使用しているタブレットに対応するため、一般用の他に学校用の Wi-Fi を設定している館もある。
- ・「小中学校造形部の先生へのアンケート」の結果を見ると、市全体として盛り立てないと難しい部分がある。学校教員向けに、アートカードの活用方法に関する講座を開催するなど、積極的な取り組みが必要。設置者である刈谷市として予算的にも事業的にも位置づけ、美術館が実施する、という形にしないといけない。
- ・近隣の小学校で先生に対する調査を行ったことがある。結果、図工・美術の教員免許を持つ先生が配置されていない学校が半数あつた。アートカードは導入として子どもたちに人気があるが、使い方が分からない教員も多い。教員向けのノウハウを伝えるような提案があると、図工・美術の専門でない先生たちの来館促進につながる。
- ・ある博物館では学校現場との連携を図るため委員会を開催し、博物館をどのようにすると使いやすいか、全教科の先生から話を聞いた。例えば国語の先生から「国語の教科だと展示内容との直接的な関係はないが、どう使ったら良いか」という質問が挙げられたが、これに対

して、「キャプションや解説を書いてみる」ということ提案した。美術の先生だけでは話が狭くなるので、次の段階では、他教科での利用といった取組みも必要だ。個人的に来館するだけでなく、学校団体で来館することも重要だ。

- ・国立科学博物館では、「教員のための博物館の日」という研修イベントを全国各地の博物館と連携して開催している。教員と連携を取ることは大事。
- ・1つ目のコンセプトの「市の宝」という表現が気になる。「市民の財産」という方が適切ではないか。3つ目のコンセプトの「交流し共につくる美術館」は、より幅広くとらえ、ギャラリー利用者が美術館と一緒にワークショップをやるなど、共催事業により活動の輪を広げると良い。多様な循環が生み出されることで、団体にもインセンティブを与えることができるし、あるいは、ギャラリー利用料を減免する、ということも考えられる。館の中核事業をやってもらうことこそが大事。連携の相手は大学だけでなく、地元企業や団体なども含めておくべき。最初から検討しないのは、もったいない。
- ・連携事業が、旧来型にとどまっている印象。多様な活動を展開するためには、館スタッフだけでは不足するのは確実である。九州国立博物館では13のカテゴリーの活動にボランティアが参画している。鑑賞ボランティアなども必要なので、連携のあり方を考えて、市民と一緒に作っていくことを考えるべき。
- ・「難しいからやめよう」ではなく、「どうしたらできるか」を考える。他館で行っているように常設展に地元企業が参画するなど、中核的な事業にも参加してもらうような思い切った発想の転換が必要。
- ・文化協会でもお手伝いできる部分があるかと思う。ギャラリー付近にワークショップスペースがあれば、子どもたちに作品制作をしてもらうということもできる。

議事（1）第4章 施設整備計画

（2）第5章 管理運営計画

[事務局説明]

議事（1）（2）の内容を踏まえ、事務局側が想定するリニューアル後の施設整備計画と管理運営計画について説明。委員から以下のような意見をいただいた。

[委員からの意見]

- ・リニューアル後は、搬出入の動線が整理されると良い。展示事業も大事だが、交流エリアがいかに整備されるかは重要で、今後40～50年も楽しんでもらえる場所として考えてほしい。
- ・基本計画にカフェについての記載がない。
- ・交流空間の賑わいが有機的にギャラリーとつながると良い。現美術館でも開館当初には3～4席の喫茶コーナーがあったが、すぐになくなってしまった。来館者から、ほっとできる場所がほしいという意見を聞く。作品鑑賞の余韻に浸れる場所を備えられると良い。十分な規模の確保を頑張ってもらいたい。

- ・諸室機能において、公開承認施設を最低基準とするということを明記した方が良いのではないかな。
- ・公開承認施設には実績が必要で、すぐに承認されるわけではないが、対応できるレベルの仕様しておくべき。「文化財 IPM」を最初に掲載する際は、「総合的有害生物管理」と記載する方が良い。文化財を中心に据えた「文化財 IPM」ではなく、「ミュージアム IPM」として、利用者にも快適で飲食サービスとも共存できるような、不快生物などへの対応も含めたしくみを考えるべき。
- ・国宝・重要文化財を展示することができる施設として、文化庁と協議しながら整備を行う必要がある。
- ・博物館法が、今後改正されることはあるのか。
 (事務局) 社会の変化や技術の進歩等によって法や基準が改正されることはあるだろう。こうした変化に対応し、適宜、改修を行っていく。
- ・管理運営スペースについて、市民を取り込んでいくことになるので、市民パートナー等の控室や作業スペースが必要。また、運営体制について、学芸と総務という立て付けになるかと思うが、3年程度で異動してしまうことも多い。企画・渉外連携・施設総務という3部門構成にして、属人的でなく組織としてノウハウが継承されるしくみを確保できるようにすることが必要。
- ・今の時点で、必要なスペースや組織体制を明示しておく必要がある。
- ・管理運営体制の「共創担当」を、市民や議会に説明しやすい言葉にしていく。マネジメントの重要性を分かりやすく説明する必要がある。
- ・これまでの議論において、交流エリアが大事だという認識で一致した。増築では、交流エリアの確保は難しいと思う。今後、数十年使い続けていくことも考えると、新築が望ましい。絵に描いた餅にならないようにしていただきたい。建築費が高騰している状況にあるが、最初からそれで上限を決めてしまうのではなく、できるだけ柔軟に考えてほしい。市の負担に国庫補助を上乗せするとか、ある部分についてはクラウドファンディングという方法もある。今後、計画を進めていくと、建設費単価が変わってきてしまうこともあるかもしれないが、心を決めて良い施設にしてほしい。
 (事務局) 委員会としての結論をいただいた。本日の指摘を踏まえて、基本計画としてとりまとめていく。会議は今回で終了となるが、今後も協力をお願いすることがあるかもしれないので、よろしくお願ひしたい。